

第 1 回革新的環境イノベーション検討会のまとめ

1. 全体議論

- 既存の技術開発だけでは、全世界の CO2 削減はできない。CO2 削減コスト等も含めた革新的・非連続な技術の発掘・開発の実施、これら技術を社会実装につなげて行く仕組みや施策の実施により、イノベーションを推進することが必要。
- 地球温暖化の問題は国際的につながった問題であり、世界的な取り組みが必要。そのため、国際連携、共同研究の推進、ルール作りへの積極的関与が必要。
- 日本が世界に先駆けてイノベーションを実施し、技術開発等の分野でリードしていくことが重要。その際、ビジネスモデル戦略として産業競争力の視点ももつことが必要。
- 技術開発だけでなく、投資等の金融面での施策も必要かつ重要。欧州と日本では大きく投資出口が異なる。

2. 個別議論

- 部門別の技術開発は長期戦略等でうまくまとまっている。どの技術から実施していくかが重要。技術開発を分類すると以下のとおりであり、効果的投資の実施が必要。
 - ①主として民間が実施する、科学的に解明され社会実装のための技術開発投資

②民間又は官が状況に応じて実施する、過去のプロジェクト等を何故社会実装できていないか、実用化していないかを再評価し、課題解決が可能な技術への支援・投資

③ゲノム編集による生物機能の工学的利用のような全く新たな技術開発

- 将来、再エネ等の主力電源化を踏まえ、系統電源と分散型電源のセクター・カップリングしたシステムなどへの注力が必要。また、IoT、AI等の情報技術を活用し、需要側を含めたエネルギーマネジメント、系統連系システム等の開発が重要。
- 発電の調整力にカーボンニュートラルをどのようにいわれるか。また、社会の側も新技術のポテンシャルを活かし、リサイクル部材の増大などを含めたデザイン技術、製造技術等が必要。
- 原子力も新技術開発が必要。